市長施政方針演説

重点施策⑤ 21世紀人材育成都市の創造

◆教育改革・出雲からの提案

出雲中央教育審議会（仮称）を発足し、教育文化に係る行政組織、コミュニティセンターおよび公民館の取扱いについて、そのより良い制度を求め、一体的な改革案を取りまとめていきます。また、地域を挙げて学校を支援する学校理事会等運営組織の導入の適否についても検討します。

◆学力対策（学力調査、英語教育、読書教育、科学教育）の推進

①独自の学力調査を全市対象に実施し、その調査結果の有効な活用を図るとともに、ウイークエンドスクール事業の拡大充実を図ります。

②英語教育特区にも優（まさ）るイングリッシュスクール事業、スーパーイングリッシュ事業の拡大充実を図ります。

③学力向上の基本である読解力向上のため、読書指導に優れたライブラリーヘルパーを新設し、読書活動の充実強化に努めます。

④全国的にも高い評価を得ている科学館学習について、市内全児童・生徒が等しく学習が受けられるようカリキュラムの再編・調整、施設面での拡充・整備について具体的に検討します。

小学校6年生が毎日継続して英語を学ぶスーパーイングリッシュ事業

重点施策⑥ 21世紀健康文化都市の創造

◆健康・医療・福祉ネットワーク

県立中央病院、島根大学医学部附属病院、市立総合医療センターによる地域医療機関のネットワークを構築し、大学への研究支援を強化します。

◆市立総合医療センターの充実

予防医学から診療、リハビリに至る、保健・医療・福祉一体の拠点となる総合的な医療センターとして充実を図ります。

・総合医療センター改革推進委員会の設置

保健・医療・福祉が一体となった拠点的役割が期待される市立総合医療センター（灘分町）

地元の産品を学校給食に取り入れた「おいしい出雲の一日」。佐田山菜おこわや佐田ぶたを使った料理、市内でとれた島根ぶどうを味わいました（6月1日　窪田小学校）

◆食育のまちづくりの推進

栄養、食習慣、食の安全、健康、地産地消など、幅広い観点からの施策を総合的に推進し、市民全体の食に対する意識の高揚と実践を図ります。

・食育のまちづくり条例（仮称）の制定

・食育のまちづくり懇話会の設置

・食育プロジェクトの推進

6月定例市議会報告（1）

5月27日に開会した6月定例市議会で決定した内容を、今号と次号の2回にわたって掲載します。まず、今号では人事案件などについてお知らせします。

条例案件

①出雲市部室設置条例の一部改正

文化企画部を文化観光部に名称変更し、観光政策課を産業振興部から移管しました（下欄参照）。

人事案件

次の方々の選任・任命に同意がありました。

〈◎が委員長に就任〉

●出雲市収入役

田中雄治さん（佐田町一窪田）

●出雲市教育委員会委員

◎今岡進さん（知井宮町）、大谷香代子さん（平田町）、嘉儀裕行さん（渡橋町）、渡部美知子さん（大社町杵築西）、黒目俊策さん（常松町）

●出雲市監査委員

〔識見〕勝部一郎さん（大津町）

〔議選〕板倉明弘さん（大津朝倉1丁目）

●出雲市公平委員会委員

◎山田恭子さん（上島町）、原　孝士さん（平田町）、尼　功次さん（塩冶町）

●出雲市固定資産評価審査委員会委員

◎成瀬達郎さん（今市町）、槇野　裕さん（灘分町）、山本良次さん（湖陵町三部）

●固定資産評価員

市資産税課長　大塚敦司

新たに就任しました

【任期平成17年5月27日～平成21年5月26日】

収入役

田中雄治（たなかゆうじ）

（佐田町一窪田）

高等学校講師を経て平成３年から旧佐田町教育長。平成11年から合併まで旧佐田町助役を務める。57歳。

教育長

黒目俊策（くろめしゅんさく）

（常松町）

昭和48年から旧出雲市職員。出雲市外６市町広域事務組合事務局長、企画財政部、産業振興部、財政部、建設事業部、総務部の部長を経て合併時から出雲市の教育次長を務める。56歳。

市組織の一部変更

全国トップレベルの観光地への飛躍を目指して、松江・出雲圏域の官民による『神話の国縁結び観光協会』が5月10日に発足するなど、観光振興の体制整備が急がれています。

市でも、出雲大社を中心とした出雲路をトップブランドとするべく、観光を前面に打ち出し、文化、芸術、スポーツや国際交流と一体化した施策展開を行っていく考えです。

そこで、5月27日付で文化企画部を文化観光部に名称変更し、産業振興部にあった観光政策課を移管しました。

また、これに伴い、観光政策課の事務室をセントラルビル2階へ、農業政策課の事務室を本庁別館3階へ移転し、6月20日から業務を開始しました。